



2011年3月28日

## 東日本大震災 被災地支援と対応現状について (参考資料)

このたびの地震災害で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。3月28日までのP&Gグループの支援状況や製品供給体制についてご報告いたします。

### 被災地への支援について

3月14日より、被災地の皆様へ子ども用紙おむつ（パンパース）や生理用品（ウィスパー）などの緊急支援物資の提供を開始。現在までに、合計200万枚以上の紙おむつ・生理用品を被災地に提供しました。今後も時間の経過により必要となる様々な生活必需品として、ヘアケア・洗剤・ペットケア製品なども含め、支援物資を提供してまいります。（\*3月28日時点での支援物資提供詳細については、巻末を参照ください。）

支援にあたっては、阪神・淡路大震災で被災した経験、ならびに支援を受けた企業といたしまして、被災地の要望・状況に即した適切な対応ができるよう、各被災地域の自治体や行政、関連支援団体などと連携してまいります。

弊社では、今回の震災に関連し、1億円分の資金を拠出し、救済・復興に向けた支援物資の提供を始め、支援金の提供やその他のさまざまな支援活動に活用してまいります。

また、上記の1億円の支援金のほかに、日本ならびに世界の従業員からの災害支援金を募り、その同額を会社から拠出するマッチング寄付なども実施してまいります。

### ○ 製品供給体制について

洗剤関連製品を製造する高崎工場（群馬県）は、操業能力に大きな支障を及ぼすような影響を受けておらず、安全確認のために一時停止していたものの、3月13日から操業を再開。施設そのものは、ほぼ正常な稼働ができる状態にまで復旧しております。また、需要の高い紙おむつに関しては、兵庫県の明石工場をフル稼働し安定供給につとめております。

しかしながら、関東地区における計画停電の影響を始め、原材料調達や交通事情、トラック・燃料確保等の状況により、新製品や企画品、既存品の一部においては、発売の延期・出荷の遅延等の支障が生じています。

弊社では、生活必需品を提供する企業として、厳しい状況下において、需要の大きい主力品目の優先生産や、被災地域への優先出荷等の措置も含め、安定供給に最大限の努力を行ってまいります。

---

## 《これまでの主な支援活動》

- 行政を始め、ユニセフ、看護協会、世界的に提携している災害支援団体などの関連支援団体との連携のもと、宮城県や岩手県、福島県、茨城県などの被災地に紙おむつ、生理用品などを緊急支援物資として提供しております。時間の経過により、紙おむつや生理用品に加え、さまざまな生活必需品への需要が高まる中、3月28日（月）現在までに提供した主な支援物資は以下の通りです。

・ 子ども用紙おむつ「パンパース」	約 93 万枚
・ 生理用品「ウイスペア」	約 119 万枚
・ 子ども用おしり拭き	約 1 万個
・ シャンプー	約 1 万 4000 本
・ コンディショナー	約 1 万 3000 本
・ ドッグフード「ユーカヌバ」	5 トン相当

弊社では、今後の被災地の状況や要請に応じて、さまざまな生活支援物資を適切な方法で提供していく計画です。

- 今回の震災の支援のために、1 億円の支援金を拠出いたします。この支援金は、一部上記の緊急支援物資の提供に使われるほか、支援金としての提供、その他、今後の様々な支援活動に充てられます。
- 上記の震災対策資金 1 億円とは別途、日本ならびに世界の P & G グループの従業員からの災害義援金を募ります。その義援金と同額を会社からの拠出するマッチング寄付として、被災地の復興に向け提供する計画です。